



Risk powers performance

有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザー

日本経済と企業の発展に貢献するために

経済・社会環境が大きく変化していく不確実な世の中で、経済成長していくためには「勇気をもって試みる」が必要です。必要なリスクテイクができるようにすること、まさにリスクマネジメントが重要となります。

有限責任監査法人トーマツ リスクアドバイザーは、世界でもトップクラスのリスクに関わる多様な専門家が多数所属し、世界最大級のリスクマネジメントビジネスを展開しています。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各国に拠点を有し、世界に5万人を超える仲間がいます。

これらの専門家の知見を結集し、クライアントのリスクマネジメントをサポートしていくことで、リスクテイクを促し、経済社会の成長につながることを信じて、目の前の課題に真摯に取り組んでいます。

共通の価値観（Shared Value）



Lead the way

今後のプロフェッショナルのあるべき姿を率先して追求すると共に、多くの人々の機会創出や持続可能な社会の実現に貢献する



Serve with integrity

誠実性を堅持し、クライアント、規制当局、社会一般からの信頼向上に努める



Take care of each other

一人ひとりを尊重し、公平性の確保、互いの成長と幸福追求に向けて配慮し助け合う



Foster inclusion

多様性を受け容れ、それを活かし強みとする
Inclusive な組織風土を醸成する

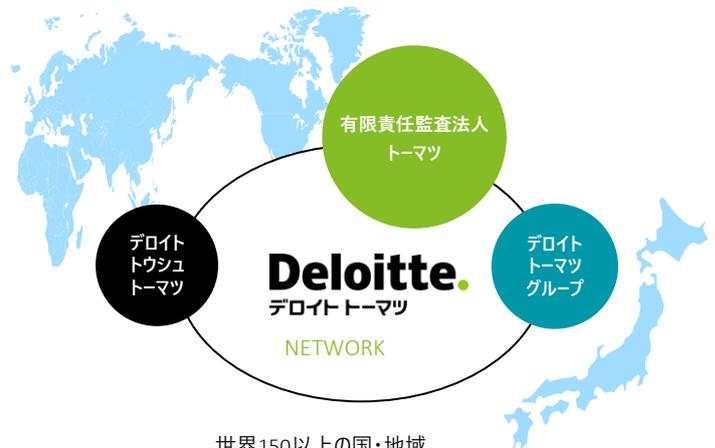


Collaborate for measurable impact

目に見える高い成果をめざし、多様なプロフェッショナルが相互協力の精神で国境や専門性の垣根を越えて連携する

デロイトおよびデロイトトーマツグループとは

Deloitte（デロイト）とは英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイトトウシュートーマツリミテッド（DTTL）ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数を含みます。全世界150を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、ワールドクラスの品質と地域に対する深い専門知識により、グローバルとローカルの両視点から監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務をクライアントに提供しています。



世界150以上の国・地域
約345,000名のプロフェッショナルが活動

デロイトトーマツグループ内主な法人と組織構成



デロイトトーマツグループは、グローバルで共通の5つのビジネス区分から構成されています

デロイトトーマツグループは日本におけるデロイトトウシュートーマツリミテッド（DTTL）のメンバーファームおよびそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、デロイトトーマツコンサルティング合同会社、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイトトーマツ税理士法人およびDT弁護士法人およびデロイトトーマツコーポレートソリューション合同会社を含む）の総称です。デロイトトーマツグループでは、グループ内で密な連携をとり、各専門の組織や会社がクライアントのさまざまな課題解決のため、最適なプロジェクトチームを組成します。会計、リスクアドバイザー、税務、ファイナンシャルアドバイザー、コンサルティング、法務の各専門家と業種・セクター別の専門チームとがクロスビジネスで連携を取り合い、高品質なサービスを提供します。

有限責任監査法人トーマツとは



私たち有限責任監査法人トーマツには、監査法人として日本の資本市場の信頼性を確保し、その発展に貢献するという社会的使命があります。

日本経済と企業の発展に貢献するために、これまでこれからも品質を重視する文化を堅持し、最大の価値を提供することで、ステークホルダーである皆様の信頼に応えていきます。

リスクアドバイザーとは

有限責任監査法人トーマツは国内初の全国規模の監査法人です。設立から50年以上の間、監査法人として日本の資本市場の信頼性を確保し、その発展に貢献するという社会的使命のもと、ステークホルダーの期待を超える高品質な監査・保証業務（Audit & Assurance）の実施を通じて、資本市場の健全な発展に寄与してきました。

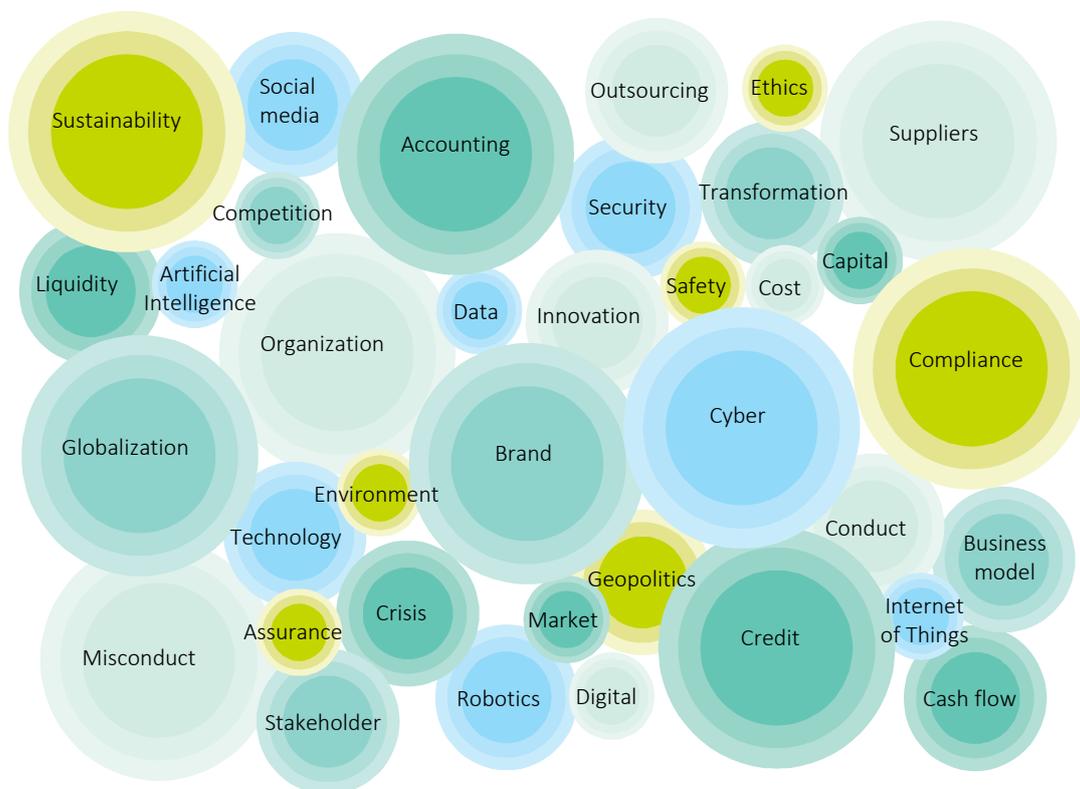
近年、企業を取り巻く環境は、日々めまぐるしく変化しています。多くのグローバル企業は、従来の仕組みやビジネスモデルに捉われない様々な挑戦をしています。そこで、私たちは監査業務によって培われた知見と信頼を生かした会計、リスク、テクノロジー領域のサービスにより、適正な財務報告やガバナンス向上を支援、企業の価値向上と持続的成長を支援するための様々なノウハウを、リスクアドバイザー（Risk Advisory）として提供しています。

現在、有限責任監査法人トーマツリスクアドバイザー事業本部には約2,500名のプロフェッショナルが在籍し、50年以上にわたり企業トップの傍らで経営の舵取りを見守ってきた監査法人としての知見と専門性を活かしながら、企業が抱える問題を根本的に解決するための道筋を提案しています。

成熟した社会において、リスクテイクなしで持続的な成長は望めません。従来のリスクマネジメントの考え方として、リスクの低減、移転、回避したうえで残ったリスクを受容することが一般的でしたが、企業の持続的成長のためには、テイク（受容）するリスクを設定した上で、それ以外を回避、移転、低減する必要があります。

そのために、インダストリー別の知見に基づく戦略リスクやレギュラトリーリスクのマネジメント、アナリティクスなどを活用したリスクの可視化が必要となります。特に近年においては、ITに起因したリスクの検討やITの活用によるリスクマネジメントが求められています。

リスクアドバイザーは、「攻め」と「守り」の両面から、企業の持続的成長をサポートし、クライアントの経営の高度化に貢献します。



経営高度化に向けてCXOは様々なリスク対応が求められています

リスクアドバイザーのサービス体制

クライアントから信頼される“Trusted Business Advisor”であるために、コンピテンシーとインダストリーふたつの切り口から、クライアントのニーズに最適なアドバイスを行います。また、クライアントのニーズが高度化・国際化する中で、デロイトトーマツグループのコンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務、および世界各国のデロイトメンバーファームと連携し、グローバル基準の価値あるサービスを提供します。

リスクアドバイザーのサービスとクロスビジネス



Talent of people



大切なのは会計の知識よりも、落ち込まずに突っ切れる気力

Governance Risk Compliance / ストラテジックリスク
スタッフ層 < 新卒入社 >

Q.GRCストラテジックリスクの仕事内容について教えてください。

私はGRCのストラテジックリスクユニットに所属しており、主に事業戦略を実行する上でのリスクマネジメントをサポートする業務を行っています。最近では、お客様の海外子会社のガバナンス体制の構築支援を担当し、実際にその体制が構築できてからは、内部監査にも携わりました。入社してすぐは会議の議事録を取る役割などでしたが、今では内部監査の現場に同行したり、打ち合わせをリードしたりと、1年半前の自分と比べると、想像もなかったような責任ある仕事を任せられています。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

実は卒業した高校の広報誌でトーマツの後藤順子さん※のインタビューを読んで、感銘を受けたのが入社したきっかけです。後藤さんはニューヨークのデロイトに駐在されていたのですが、私もニューヨーク州の大学に通っていたことや、高校が同じだったことで、不思議なつながりを感じたんです。それで「私もこんな女性になりたい。会計を勉強して、トーマツで働きたい」と強く思ったのが入社最大の理由です。実際に働いてみても、イメージ通り本当にフラットで、女性も多く、とても働きやすい環境です。

※後藤 順子 (Yoriko Goto)

デロイト トーマツグループ 及び 有限責任監査法人トーマツ 前取締役。デロイト トウシュ トーマツ リミテッド Financial Services Industry 日本代表、有限責任監査法人トーマツ 金融本部長、デロイト トーマツグループ 金融インダストリーリーダーを歴任。1993年から2002年までデロイト ニューヨーク事務所へ駐在。2018年6月よりデロイト トウシュ トーマツ リミテッド Governance Committee 及び Board of Directorsメンバーを務めた。

Q.どんなときに仕事のやりがいを感じますか？

学生時代にリスクアドバイザー事業本部のインターシップに参加したのですが、そのときはリスクを洗い出したり、評価をしたりなど、リサーチの仕事が中心だと思っていました。

でも実際に働いてみると、何かをリサーチするというよりも、自分の頭で考えることが多く、想像以上に業務の幅が広いんですね。ひとつに縛られることなく、リスクに関することであればどんなことでもできるのが、この仕事の醍醐味だと思います。

また、業務に直接関連することではありませんが、トーマツには中南米や北欧にいた方など、いろんな背景を持った人が働いています。日本の文化とは違う考え方やバックグラウンドを持つメンバーと、調和しながら仕事を進めていくことも魅力を感じます。

一方で、私たちが発する言葉の一つ一つが経営に大きな影響を及ぼすことも少なくないので、常に緊張感があります。たとえばガバナンス体制の調査や内部監査では、お客様の会社のプロセスを評価するのですが、評価者の言葉として強すぎる印象を与えてしまうと、お客様の気分を害しかねません。とはいえ指摘すべきことは伝えなくてはならないので、表現の仕方にはいつも頭を悩ませています。今はお客様や上司が何を求めているのか、なぜそういう発言をしているのかを、正しくキャッチできるようにしたいと思っています。

Q.学生の方へメッセージをお願いします。

監査法人ということで、会計の知識が必要なイメージがあるかもしれませんが、10月入社同期8人のうち、会計のバックグラウンドがある人は3人だけ。会計の知識は入社してからの努力で勉強でカバーできます。それよりも大切なのは、落ち込まずに、突っ切れる気力。私自身、仕事のレベルに追いつけなくて不安になることもありますし、意見やアイデアがあっても、それが正しいのかどうかを気にして、発言できなかったりすることもまだまだあります。でも、そうした不安や気持ちを乗り越えて、自分の思いをどんどん出してくれる人とぜひ働きたいですし、私も早くそんなリスクアドバイザーのプロフェッショナルになりたいです。



100か0ではなく、働き方の選択肢がいくつもある

Governance Risk Compliance / オペレーショナルリスク
マネジャー層

Q.GRCオペレーショナルリスクの仕事内容について教えてください。

私はGRCオペレーショナルリスクユニットに所属し、不動産業界のお客様を担当しています。業務内容は大きく分けて2つあり、1つ目が個人情報やマイナンバー、情報セキュリティに関する管理体制の構築や内部監査の支援。2つ目が内部統制報告制度 (J-SOX) のサポートです。前者は、経済産業省が公表する情報セキュリティ関連の基準や個人情報保護委員会が公表するガイドラインに従い、社内のルールを作成するところから、実践、内部監査、是正措置等の支援を行っています。また、後者では、お客様の実態に合わせて経営者評価業務をサポートしています。リスクアドバイザーは会計以外の部分で、お客様と一緒により良い方法を考えていくところが醍醐味でもあり、難しいところでもあります。

Q.トーマツを選んだ理由を教えてください。

以前は独立系のSI企業で金融機関のシステム構築やセキュリティ設計をしていました。ですから、入社前はこれまでとまったく違う業界・業務に自分が対応できるのか不安もありましたが、それ以上に幅広い業務や知識に触れられる点に魅力を感じたのが、トーマツを選んだ理由です。

偶然ですが、前職の頃に簿記や財務諸表論、財政論などを勉強し、システム監査の資格も取っていたことが入社後は非常に役立っていますし、入社後は充実したトーマツの研修プログラムを活用しながら、業務に必要な知識を身につけていくことができました。

Q.子育てと仕事をどのように両立させているのか教えてください。

私には2歳になる息子がいるのですが、現在はFWP制度 (フレキシブル・ワーキング・プログラム) を利用しています。これはライフステージに応じて休職や業務量軽減、業務時間軽減などを申請できる制度で、私は業務軽減を選択して、クライアントに伺わなければいけない案件を減らし、急ぎではない社内業務を増やしてもらっています。また、子どもがまだ小さく、急な病気などでお休みすることもあるので、プロジェクトを担当する際は、なるべくバックアップを受けられるような体制を組んでいただいています。

子どもが小さいうちは、仕事の第一線から外れて働く方も少なくないと思うのですが、その場合、キャリアが一時的にストップしてしまうことにもなります。私は、出産後も仕事内容は変えずに、業務量や時間で調整して、「細く長く」キャリアを構築したいと考えていたので、今の働き方は理想的ですね。トーマツでは子育てに関する制度は女性に限らず男性も利用しやすく、遠慮しなければならない雰囲気はまったくありませんから、安心して今の働き方を続けることができています。

Q.今後の目標を教えてください。

今、介護が必要な家族がいるのですが、今後のことを考えると公的なサポートや会社の制度も利用しながら、子育てと介護、そして仕事も続けることが理想です。

トーマツは会社としてはもちろん、上長の方も、一人一人のライフステージに合わせて成長することを期待してくれているので、業務量や内容を相談すると、チャレンジも、セーブもさせてもらえる風土があります。100か0かではなく、場合によっては60でいいという働き方ができる制度があるのは、子育てや介護を考える上で、大きな安心感につながります。

仕事に子育てに介護と、すべてをこなすのは大変ですが、同時にそれぞれが良い意味での気分転換にもなります。トーマツにも子育てをしながら働いている女性もたくさんいますし、今は別の会社で働いているけれど、子育てや介護をしながら、トーマツで働いてみたいという女性もたくさんいらっしゃると思います。

私が実践することで、トーマツならこういう働き方ができるということを知っていたら嬉しかったです。



お客様や周りが自然と自分を高いレベルに引き上げてくれる

Accounting & Finance / アカウンティングアドバイザー
マネジャー層

Q. アカウンティングアドバイザーの仕事内容について教えてください。

主に国際会計基準（IFRS）の導入を検討しているお客様にアドバイザーとして入り、その支援を行っています。
ビジネスがグローバル化するなかでIFRSの導入はトレンドとなっていますが、日本の会計基準から国際的な基準に揃えるには多くの課題もあり、それを解決することが仕事になります。

Q. この仕事を選んだ理由を教えてください。

私はCPA試験合格後は事業会社で経理の実務をしていました。そこで自社のIFRS導入を経験したことで、会計の専門知識を持つプロフェッショナルとして企業を外から支援できる仕事がしたいと考え、この職種を選びました。トーマツを選んだのは、監査法人系のアドバイザーでは業界最大手であることや、IFRSの支援実績や知見も多く、自分の経験がいかにせよと感じたことが大きいですね。実際、アカウンティングアドバイザーに求められるのはゼロから、もしくは現在の状況を整理して、新しい業務プロセスを作っていくというものです。ただ、それには一般的な実務の流れを把握したうえで、さらにあるべき姿を知っていないとできないため、前職の経験が非常に役に立っています。

Q. 入社前のトーマツのイメージはどのようなものでしたか？

入社前は一人一人が個々のプロフェッショナルとして独立して働いていて、どちらかというとドライな雰囲気かなと考えていたんです。
でも実際に働いてみると、上も下も分けへだてなく、さらには他の部署のメンバーとも協力しながらお客様に質の高いソリューションを提供しようという意識がとても高く、そこはイメージと違ったところでした。今はそうした人間味あふれる働き方や、結束力の高さこそがトーマツの強みのひとつだと感じています。

Q. どんなときに仕事のやりがいを感じますか？

お客様自身が見えていないニーズや課題を可視化して、何が重要で、何が重要ではないかを伝え、それに対してどのようなアプローチでゴールまで導くか。そうしたソリューションは、我々アカウンティングアドバイザーにしかできない仕事ですし、そういったところをしっかりとサポートできるのがこの仕事のやりがいだと思います。

Q. トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

トーマツは扱う案件の規模が大きく、社会からの期待を感じることができます。そうしたチームの一員として、お客様の課題を解決する一助となれるのは非常に大きな魅力です。
また、トーマツには各専門分野のスペシャリストがたくさん集まっているので、一緒に仕事をすれば自然と知識や刺激を得られ、自分の成長につながります。もちろん、周りのレベルやお客様の高い要求についていくだけの胆力が必要ですが、挫けずについていくことができれば、高いレベルに引き上げてもらうことができるのも魅力です。
一方で、この仕事には会計の専門家としての知識はもちろん、お客様のニーズや状況を踏まえて、どういった進め方が適切であるかをイメージできることが求められます。言い換えればこの仕事にとっていちばん大事なものは“人間力”だと思います。

Q. 学生の方へメッセージをお願いします。

アドバイザーは、いろいろな考えを持った人のさまざまなニーズに応える必要があります。ですから、お客様の機微を察する能力が非常に大事。たくさんの人と色々な話をして、コミュニケーション能力を磨くことを心がけてほしいですね。最初からプロフェッショナルという人は誰もいませんが、トーマツには、自分が成長しようと思えばそれを支えてくれる人・環境・リソースが揃っています。情熱を持って取り組める人、そのための努力ができる人なら、きっとプロフェッショナルを目指せると思います。



立場に関係なく、仕事や人と真摯に向き合うのがトーマツの文化

Digital/Technology / デジタルガバナンス
スタッフ層 < 新卒入社 >

Q. デジタルガバナンスの仕事内容について教えてください。

私の主な業務内容としては、銀行、証券会社、保険会社などの金融機関のお客様に対して、金融庁の作成している安全対策基準など、特定のガイドラインに基づいてシステムの管理態勢を評価する業務や、アドバイザー業務を行っています。
その他にも私の所属するデジタルガバナンスでは、ITプロジェクトPMO支援、ITプロジェクト第三者評価、クラウド提供サービスに対するリスク評価支援、システムリスクに係る内部監査の助言等、約100名のメンバーで多岐に渡るサービスを提供しています。

Q. デジタルガバナンスを選んだ理由を教えてください。

日本とアメリカの両大学に2年間ずつ通うなかで、経営とITの橋渡しができる人材になりたいと思うようになったのがきっかけです。ただ、就職活動中は、SEを経験して技術的な知見を養うか、コンサルティングファームで事業会社に対してアドバイスを行う仕事に就くかでとても迷いました。
最終的には、トーマツでのインターンシップを通じて、仕事内容に強い魅力を感じたことや、トーマツに所属する人の働き方や仕事への向き合い方、キャリアに対する考え方に共感したことが、入社を決め手になりました。
特にインターンシップで印象に残っているのは、ある資料をシニアマネジャーに提出した際に「お客様のトーマツに対する高い期待に対して、このレベルであきらめていいの？」と厳しい指摘をしてくださったことです。
当時は学生でしたから、結構へこんでしまいましたが、立場に関係なく、仕事と私に真摯に向き合ってくださいる姿を見て、褒める部分は褒めながらも、指摘すべき部分はきちんと指摘してくれる、そうしたトーマツの文化にも、自分が成長する場所として非常に惹かれました。

Q. どんなときに仕事のやりがいを感じますか？

プロジェクトやクライアントの規模を考えると、デジタルガバナンスでの仕事はとても影響範囲が大きいものです。
1年目は先輩スタッフやマネジャーの指示のもとに仕事をするのが主でしたが、それでも自分が作成した資料などが最終的に経営層への報告などに使われ、企業の意思決定に採用されているということを経験報告会などで目の当たりにすると、非常にやりがいを感じます。一方で、お客様の要望に応えることはもちろん、そこに付加価値をどのように提供できるかが、この仕事の難しさでもあります。

Q. 入社前の会社のイメージはどのようなものでしたか？

仕事がハードでプライベートの時間もとれないようなイメージでしたが、実際は労働時間で評価されるのではなく、いかに定められた時間内にハイパフォーマンスを出せるかという観点で評価する体制で、とても働きやすい環境だと思います。また、入社後は新人研修や数か月区切りでのフォローアップ研修、業務に必要な資格の費用などのサポートもありますし、人事評価制度としては約2週間に一度、所属するプロジェクトの主任とのコミュニケーションや、3か月に1度のコーチ面談など、仕事に対するフィードバックをかなり頻繁に得ることもできます。これらを通じて、自分の仕事やキャリアプランに対してアドバイスを頂けるのは、とても有意義だと思います。

Q. 今後の目標を教えてください。

日本国内だけではなく海外にも目を向け、金融業界でITに特化した助言ができる人材になりたいと考えています。
金融業界といっても銀行、証券、保険などさまざまなセクターがありますし、ITといってもIT戦略、サイバーセキュリティなど幅広い業務内容があります。入社後1年は、日本国内の銀行や証券会社様向けに評価業務を経験しましたが、今後は語学スキルも活かして、未経験の業界や海外案件にも積極的に関与していきたいです。



「IT・会計・グローバル」のキーワードが引っ掛かる方には最適な仕事

Digital/Technology/アシュアランス システム監査
マネジャー層 < 新卒入社 >

Q.アシュアランスの仕事内容について教えてください。

財務諸表監査と内部統制監査の一環で、システム監査の業務を行っています。どのお客さまも、業務のニーズに合わせて、様々なかたちでITを活用しています。代表的なものだと、会計システムや販売・購買システムなどのアプリケーション・システムが挙げられますが、最近では第四次産業革命とも呼ばれるように、ビッグデータを活用したデータ分析、AI、RPA、ブロックチェーンなど何らかのIT技術を導入しているお客さまもおられます。

システム監査の業務は、お客さまが利用しているITが意図した通りに利用されているのか、ITがどう管理されているのかを第三者的に確認する仕事です。もちろん、財務諸表監査や内部統制監査の一部で実施する業務ですので、会計やお客さまの業務やリスクなど様々な観点を盛り込みながらシステム監査の業務を行っています。

私は、トーマツ入社以来、様々な業界のお客さまの監査を体験しました。今はTMT（テクノロジー、メディア、テレコミュニケーション）業界や商社業界のお客さまを中心に業務を行っています。

また、監査業務で得られた知識や経験などを生かして、ITに限らず、内部統制の導入・維持・高度化のアドバイザー業務なども実施しています。

Q.この仕事を志望した動機を教えてください

アメリカの大学に留学していたときに、先輩の話やボストンキャリアフォーラムを通じてリスクアドバイザーという仕事を知り、興味を持ったのがきっかけです。当時からアメリカではデロイトは働きたい会社のトップ10に入っていたので数居の高さも感じていましたが、先輩や職員の方と話してみると、フレンドリー且つ知的な印象を持ちました。

実際に入社してみると人種、性別、年齢、職位に関係なく、非常にフラットな環境で仕事をしていることが分かりました。私はニューヨークのデロイトで1年働いた後、日本のトーマツに入社したのですが、ユニット間でのつながりや、フラットな環境というのはトーマツにも共通していると感じます。また、デロイトというグローバルな組織の中で私たちは監査のやり方を学び、実践していますから、どこの国のデロイトの方にお会いしても、共通言語を持って監査の話が通じます。実際に、海外出張や日本で海外のデロイトの人とお会いして、同じ意識で話ができるのはうれしい発見でした。

Q.トーマツに入社して、成長できたと感じている点を教えてください

グローバルという点では、アメリカへの留学経験やそのときに身につけた英語力も手伝ってか、世界展開しているお客さまを担当する機会が多くありますし、タレントセレクトと呼ばれる海外派遣制度でアメリカのデロイトに2年間勤務する機会も得られました。また、通常業務の中で、経営者や経営層の方とディスカッションすることもあるため、経営目線での物事の考え方を学ぶ機会も得られています。

ITや会計、様々なビジネスの理解はもちろん、人間力という意味でも日々、成長できていると感じます。チャレンジングな環境が与えられる時こそ、自分のスキルの幅を広げ、成長できるチャンスだと思って、楽しみながら業務に取り組んでいます。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

学生の皆さんの中には、コンサルティング業界で自分のプロフェッショナルスキルに磨きをかけたい、チャレンジしたいという方も多い方と思いますが、その中でも、自分のコアスキルとなる領域を定められるか不安を持たれる方も多いのではないのでしょうか。

その点、グローバル展開する監査法人系のアドバイザー組織に属する我々の強みは、「IT・会計・グローバル」というプロフェッショナルとしてのコアスキルを習得できることにあります。

自身のキャリアがスタートする訳ですから最初に入社する会社は、今後のキャリアアップや自己成長のために非常に大事です。入社前にIT、会計、英語の知識に不安を感じる人もいるかもしれませんが、トーマツには、専門家と業界の知見が揃っているだけでなく、充実した研修やOJTがありますので、知識は入社してからでも十分に積んでいくことができます。前述の通り、社内はフラットな環境なので役職に関係なくアドバイスをもらえますし、そこから学ぶことも多いです。この業務は「IT・会計・グローバル」をキーワードに、チャレンジが好きな方、チャレンジングな環境を楽しめる方には最適な業務だと思っています。



データ分析と課題をつなぐ架け橋になりたい

Digital/Technology/デロイトアナリティクス
スタッフ層 < 新卒入社 >

Q.デロイトアナリティクスの仕事内容について教えてください。

デロイトアナリティクスは監査業務向けのAudit Analyticsと、企業向けにデータ活用を支援するためのBusiness Analytics、技術を研究開発しデータ活用支援への適用可能性を探るR&Dの3つに大きく分かれており、私はAudit Analyticsを担当しています。基本的には監査チームと一緒にサービスを提供していただくのですが、私は小売や航空運輸など幅広く担当しています。従来の監査は、どちらかというと過去に不正等がないかをチェックする事後発見的な性質を持っていましたが、Audit Analyticsを活用して様々なデータと組み合わせることで、今後、起きる可能性のある不正の識別や、不正が起きそうな箇所を予測して、予防策を助言・提案することができるようになります。さらには、Audit Analyticsによって経営管理に活かせる情報を共有することも多くあります。「アナリティクスがあるからトーマツに監査を任せたい」という声も頂いており、裾野の広がりを感じると同時に、会計士からもお客さまからも期待が高くなってきているのを感じています。

Q.トーマツ選んだ理由を教えてください。

私は大学院で経営工学を学び、研究で産学連携にも携わってきたことから、会社の課題をヒアリングして、データで分析・解決していくことには大変興味を持っていました。そこでデータ分析とアドバイザーやコンサルティングの要素がある仕事を探すなか、いち早く監査領域のアナリティクスに着手していたトーマツに興味を持ちました。当時はそうした領域を手がけている組織はほとんどなく、発展途上の段階にある分野に貢献したいという気持ちもあり、新卒で入社しました。

Q.トーマツで働くことの魅力はどんなところですか？

最初は主に作業員として実際に手を動かしながら学んでいく立場から、入社4年目となった現在では責任ある仕事を自ら推進していくようになり、非常にやりがいを感じています。入社前は会計士が多いイメージを持っていましたが、デロイトアナリティクスのユニットでは会計士はむしろ少数派であり、互いの知識やスキルを補完しあいながら一緒に価値を提供していくという文化が根付いています。また、世界各国のデロイトのプロフェッショナルが一堂に会した場で、日本のAudit Analyticsで行った分析を紹介し、その仕組みやアプローチ方法を英語でプレゼンテーションする機会もありました。そういう場に立つことで成長することができたと思いますし、自分はグローバルで見ても価値がある仕事をやっているのだと実感できる機会にもなりました。こうした機会を得られるのも、デロイトならではの魅力だと思います。

Q.今後の目標を教えてください。

お客さまにしっかりと価値を提供するためには、データ分析、ビジネス知見、それらをわかった上でのアドバイザー能力の三軸が必要なので、それぞれのスペシャリストの方々から多くのことを吸収し、3つすべてをしっかりとできるようになりたいです。その上で、課題がなければ分析は成立しないので、点と点をつなぐように、技術と課題との架け橋となっていけたらと思います。データ分析をソリューションとするところが強みではありますが、それはあくまでツールだと思います。お客様の課題を解決するアドバイザーとして、デロイトアナリティクスのサービスを多くのお客さまに展開していきたいと考えています。

Q.この業界を目指す学生の方へメッセージをお願いします。

デロイトアナリティクスの仕事は、データ分析、ビジネス知見、アドバイザーという3つのスキルが1つでも欠けていると成り立ちません。とはいえ、最初から全部できる人はほとんどいないと思います。でも、だからこそお互いにわからないポイントをわかりあうことができ、手厚い初年度研修やフォローアップの場を通じて、一緒に高めあって成長していけるのだと思います。有志での勉強会なども頻繁にあり、継続して自己研鑽をしていくことはどうしても必要ですが、わからないことを楽しみながら吸収していく姿勢があれば、きっと大きく成長できると思います。

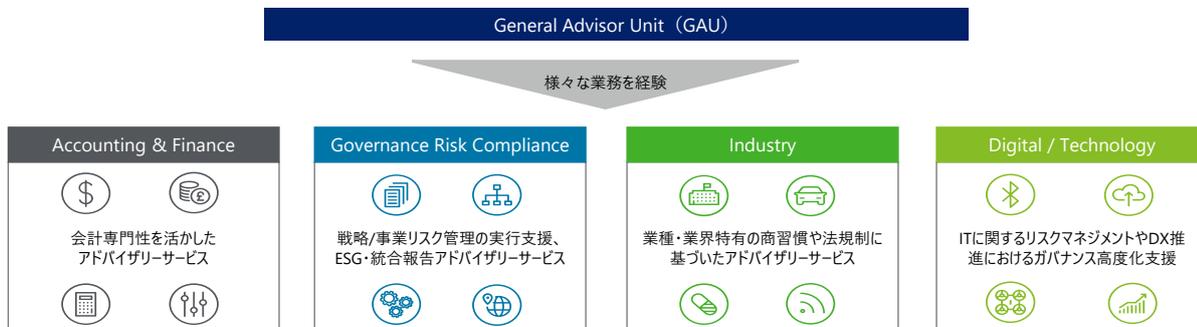
※内容はすべて制作時の情報です

リスクアドバイザー人材を育てる仕組み

新卒で入社された皆さんが一流のリスクアドバイザー人材に成長していくための仕組みがGeneral Advisor Unit (GAU) ※です。

GAUは新卒で入社された皆さんが配属するユニットで、特定の専門性（コンピテンシー）やクライアントの業種（インダストリー）にとらわれることなく、幅広いプロジェクト経験をすることで、リスクアドバイザー人材として必要な基礎スキルを習得するとともに、各自がフォーカスしていく専門領域を見極めていくことができます。

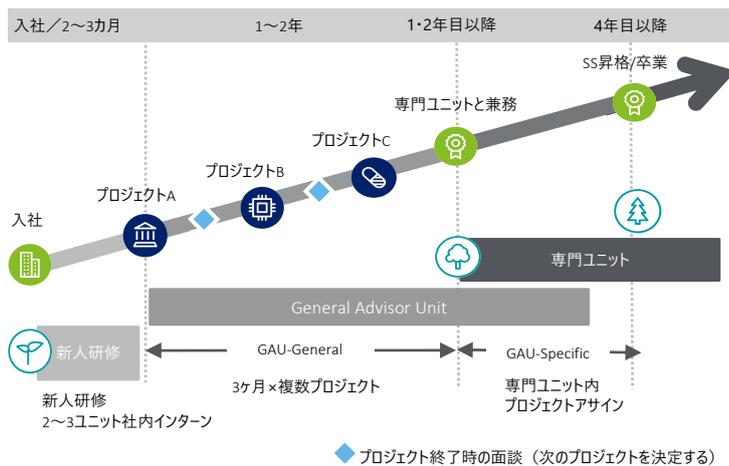
デジタル領域（Assurance, Analytics, Digital Governance）は、General Advisor Unitに所属せず専門ユニット所属となるキャリアプランもご用意しています。



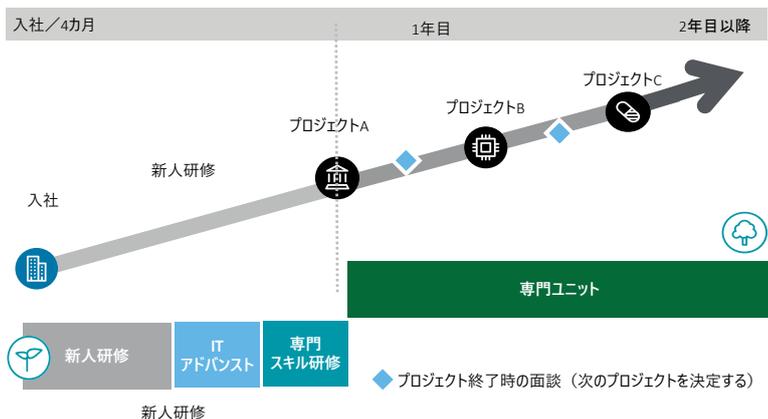
GAUでは、新人研修のあと各人が希望するユニットに短いアサイン（社内インターン）をして、ユニットの業務の様子をつかんでいただきます。そのあとは、3ヶ月単位で、例えば、アカウンティングアドバイザーユニットのIFRS導入支援の案件にかかわっていただいたあと、次の3ヶ月間は、GRCのストラテジックリスクユニットでガバナンス体制の構築支援業務にアサインする、といった形で、各人の希望を伺いながら複数のプロジェクトを経験いただきます。この期間を、GAU-Generalと呼んでいます。

そして、平均的に1～2年の期間の中で専門領域を探し出していただき、各ユニットの合意を得た上で、専門ユニットとの兼務になります。この期間をGAU-Specificと呼んでいます。GAU-Specificの間、専門ユニット内のプロジェクトで研鑽を積み、SSへ昇格する時に、一人前のアドバイザー人材として、GAUを卒業することとなります。

GAU入学から卒業までの成長プロセス



デジタル領域のプロフェッショナルを育てる人材育成カリキュラム



デジタル領域（Assurance, Analytics, Digital Governance）※は、専門性を早い時期に身に付けいただく必要があるため、入社時から専門ユニットに配属されます。多様な研修やプロジェクト経験を積みながら、コンサルティングスキルの向上を図るとともに専門分野を尖らせていきます。

その他、専門知識を高める研修を各チーム主体で実施しています。

- プロジェクト事例報告
- サービス・規制動向
- 外部研修 等

※Digital Governanceについてはデロイトトーマツリスクアドバイザー株式会社へ入社となります。

プロフェッショナルとして活躍していくための人材育成プラン

リスクアドバイザーのプロフェッショナルとして成長していくための研修や制度が充実しています。

人事評価は、デロイト全体で用いている制度を採用しており、グローバルレベルで求められる資質・能力の共通化を心がけています。

また、中長期的な成長を見守るため、一人一人に「コーチ」とよばれる先輩が付き、業務状況の確認や今後の成長に資するアドバイスを行っています。

コンサルティング研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ロジカル・シンキング ✓ プロフェッショナルマインド ✓ プロジェクト・マネジメント 	<h3>海外派遣プログラム</h3> <p>海外駐在・・・日系企業を戦略的に支援。4年間。原則マネジャー以上。 海外派遣・・・現地プロジェクトに従事し国際的な知見を身に着ける。3か月～2年間。 海外語学研修</p> <h3>資格補助</h3> <p>専門性・第三者性の高いプロフェッショナルとして体系的な専門知識を身に着けるために、目指す専門性に有用な資格取得を推奨 例) 米国公認会計士 (USCPA)、公認内部監査人 (CIA)、公認情報システム監査人 (CISA)、基本情報技術者、公認不正検査士 (CFE)、英国勅許公共財務会計士 (CPFA)、情報セキュリティ・プロフェッショナル認証 (CISSP) など</p>
IT基礎スキル研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ IT知識 ✓ ITシステム開発基礎 ✓ データ分析・アナリティクス ✓ デジタルソリューション 	
各種研修	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門スキル研修 ✓ インダストリー研修 ✓ e-learning 	

ひとりひとりの相互の共感と信頼に基づく「Well-being 社会」の実現に向けて

Personal Well-being

Ethics & Integrity



公共の利益に資するプロフェッショナルとして、Integrity (誠実さ、高潔さ) を個々人として保持し、それを組織として担保するための基盤としてEthics (倫理観) 推進活動を行っています。

- Workshop形式のエシックス研修
- 各種キャンペーン実施
- Shared Values と Code of Conduct (行動規範)
- Deloitte Speak Up

DEI (Diversity, Equity & Inclusion)



「平等/Equality」よりも「公平/Equity」を重要視し、目に見えない多様性を含めた個々の「違い」が「強み」となる組織を目指し、そしてその先の社会変革にもつなげるべく、包括的・戦略的にDEIを推進しています。

- ジェンダー平等/女性活躍推進
- 多文化共生/International Members
- LGBT+/アライ
- 障がいインクルージョン
- 各種ワークライフバランス施策・制度
- コミュニケーション&社外ネットワークとの連携

成長機会の提供

- 人材採用：キャリア採用、バイリンガル採用を積極的に実施
- 人材研修：専門知識・グローバル対応力など幅広いプログラムを用意
- D-nnovator：能力発揮の機会を支援する新規事業公募制度

Societal Well-being

World Class



WorldClassは、教育、スキル開発、機会創出の3分野で、2030年までに全世界で累計1億人の人々に対してポジティブなインパクトを及ぼすことを目指すDeloitteのグローバルな取り組みです。

デロイトトーマツグループにおいても、2030年までに200万人の人々に対してインパクトを及ぼすことを目標に掲げ、取り組みを推進していきます。

コレクティブ・インパクトによる社会課題解決の推進



デロイトトーマツウェルビーイング財団「Well-being社会」の構築に貢献することを旨とし、人のWell-beingの向上に繋がる組織・企業・NGO・NPO等の複数の団体からなる共同体への助成を実施します。

復興支援

東日本大震災の直後から、イノベーションを加えた「震災新興」を目指し、主体的に活動を続けてきました



Planetary Well-being

World Climate



デロイトトーマツグループは、2030年までに自らの事業活動に由来する温室効果ガス排出量を実質ゼロにすること (Net zero by 2030) にコミットしています。

Climate Sustainability イニシアチブ

2050年の脱炭素化目標はSDGsのトップスローガン「Leave no one behind」を踏まえた達成が重要です。「Just Transition (公正な移行)」を具現化するため

に、私たちはカーボンニュートラル社会への移行に伴う全てのステークホルダーの協調連携を促進し、課題解決に向けたイノベーション・技術投資改革・行動変容を支援します。



法人概要

■法人名

有限責任監査法人トーマツ

■法人名 (英名)

Deloitte Touche Tohmatsu LLC

■設立年月

1968年5月

■資本金

1,079百万円 (2021年5月末日現在)

■代表者

包括代表 大久保 孝一

■人員数

7,128名 (2021年5月末日現在)

社員 (公認会計士) : 488名

特定社員 : 50名

職員 公認会計士 : 2,664名

公認会計士試験合格者等(会計士補を含む) : 1,323名

その他専門職 : 2,447名

事務職 : 156名

合計 : 7,128名 (左記のうち、公認会計士 : 3,152名)

■主事務所所在地

〒100-8360

東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビルディング

Tel : 03-6213-1000 / Fax : 03-6213-1005

■その他事務所

札幌 仙台 盛岡 東京 (丸の内 [新東京ビル]・品川) 新潟 さいたま 千葉 横浜 長野 金沢
富山 静岡 名古屋 岐阜 京都 大阪 奈良 和歌山 神戸 岡山 広島 高松 松山 福岡
大分 熊本 鹿児島 那覇

■連絡事務所

福島 高崎 松本 福井 浜松 滋賀 松江 北九州 宮崎

■海外駐在員派遣

約50都市

デロイト (※2) ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、北京ほか

※2 デロイトトウシュートーマツ リミテッドとそのメンバーファーム

■監査関与会社

3,232社 (2021年5月末日現在)

金商法・会社法監査 : 934 / 金商法監査 : 10 / 会社法監査 : 1,088 / 学校法人監査 : 71 /

労働組合監査 : 34 / その他の法定監査 : 486 / その他の任意監査 : 683

Deloitte.

デロイト トーマツ

デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ コーポレート ソリューション 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナル グループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスク アドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市以上に1万5千名を超える専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト (www.deloitte.com/jp) をご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”)、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー ファーム およびそれらの関係法人 (総称して “デロイト ネットワーク”) のひとつまたは複数 を指します。DTTL (または “Deloitte Global”) ならびに各メンバー ファーム および関係法人 はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバー ファーム ならびに関係法人 は、自らの作為 および不作為 についてのみ責任を負い、互いに他のファーム または関係法人 の作為 および不作為 について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは DTTL のメンバー ファーム であり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバー およびそれらの関係法人 は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市 (オークランド、バンコク、北京、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む) にて サービスを提供しています。

Deloitte (デロイト) は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、リスク アドバイザリー、税務、法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500® の約9割の企業や多数のプライベート (非公開) 企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters” をバース (存在理由) として標榜するデロイトの約345,000名のプロフェッショナルの活動の詳細については、(www.deloitte.com) をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”)、そのグローバル ネットワーク 組織を構成するメンバー ファーム およびそれらの関係法人 (総称して “デロイト ネットワーク”) が本資料をもって専門的な助言 や サービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約 (明示・黙示を問いません) をするものではありません。また DTTL、そのメンバー ファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生し得る損失および損害に対して責任を負いません。DTTL ならびに各メンバー ファーム およびそれらの関係法人 はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited